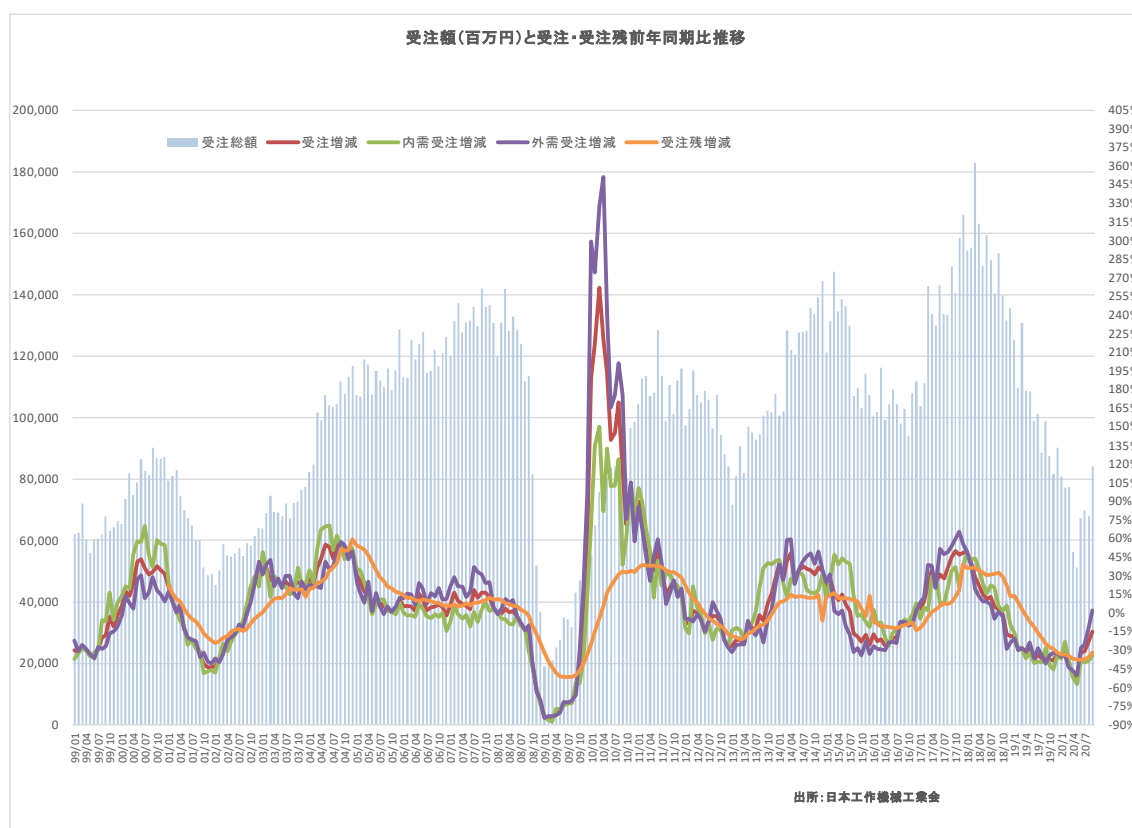


工作機械工業会 9月受注速報 9月は15.0%減、2020年工業会予測8500億円の減額

9月受注は前年同月比15.0%減の841億円と24ヶ月連続減も外需が24ヶ月ぶりに増加

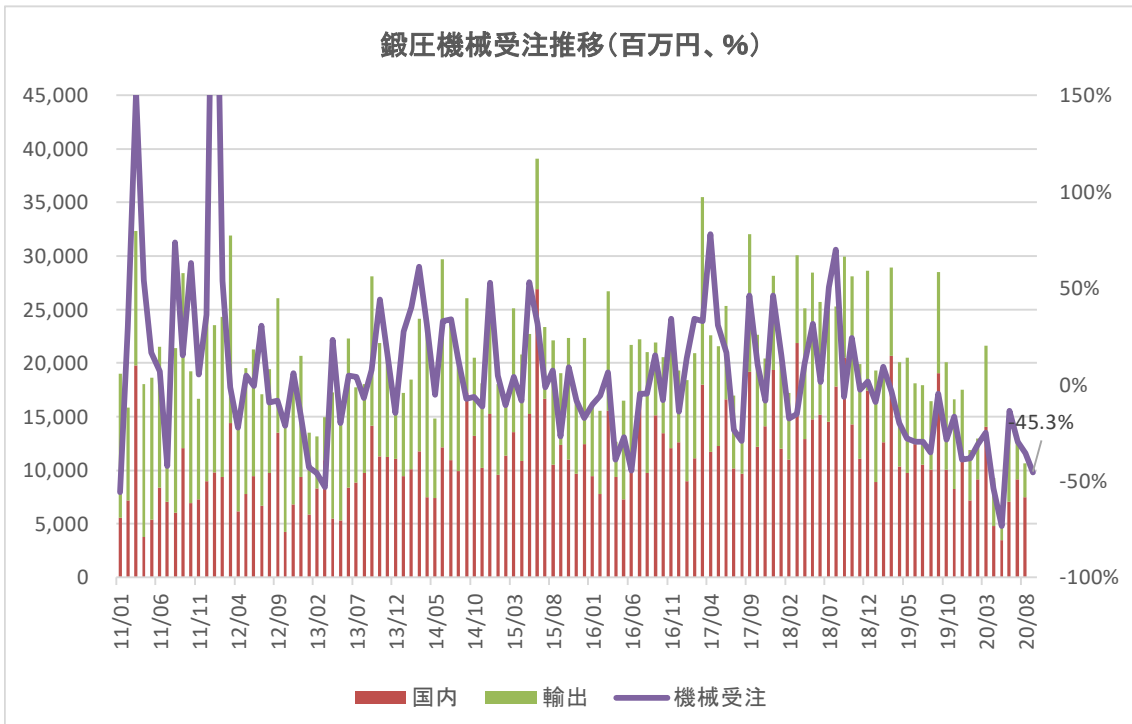
10/12の15時に日本工作機械工業会の9月受注速報が開示された。9月受注は前年同月比15.0%減の841億円と、前年同月比24ヶ月連続減少となった。8月比では23.8%増と、上期末の季節的要素もあり大幅増に。特筆すべきは外需が24ヶ月ぶりにプラスに転じたことであるが、内需は厳しさが継続している。

内訳は内需が303億円(34.3%減)で22ヶ月連続減、前月比では31.2%増と、3月以来の300億円大台乗せに。外需は539億円(1.8%増)で24ヶ月ぶりに前年同月比でプラスに転じた。引き続き中国増が寄与していると見られる。



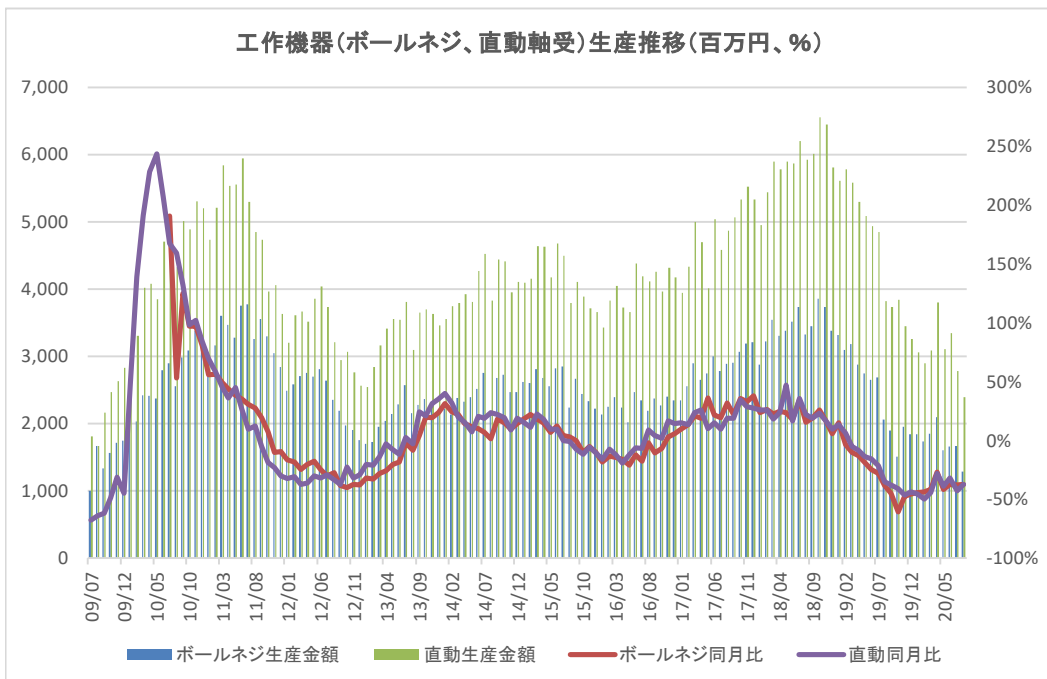
金属加工機械として鍛圧機械受注も低迷、8月受注は前年同月比35.4%減の106.1億円

工作機械と同じ金属加工機械として、鍛圧機械の受注も低迷が続いている。10/8に発表された日本鍛圧機械工業会の9月鍛圧機械受注は、機械全体で前年同月比45.3%減の114.57億円と19ヶ月連続減となった。前月比では工作機械同様、上期末で47.2%となっている。9月としては2009年9月の99.42億円以来の低水準となった。内訳はプレス機械が57.42億円(51.4%減)、板金機械が98.79億円(41.0%減)。国内が114.57億円(39.9%減)、輸出は41.69億円(56.1%減)と輸出の厳しさが目立つ。内訳は中国が14.7%増も、北米73.0%減、欧州61.9%減、東南アジア70.9%減、韓国・台湾も88.5%減と中国除き総じて厳しい。



工作機械関連機器の工作機器生産、8月はボールネジ、直線運動軸受が再度落ち込む

工作機械に関連する工作機器も生産減少が続いている。8月生産では全体で836億円(37%減)、主力のボールネジが前年同月比37%減の12.88億円と2009年7月の9.96億円以来の低水準、直動軸受も37%減の23.85億円と2009年9月以来の低水準となっている。金額的には昨年秋口の金額をボトムに若干回復傾向にあったが、工作機械より厳しく再度落ち込む。

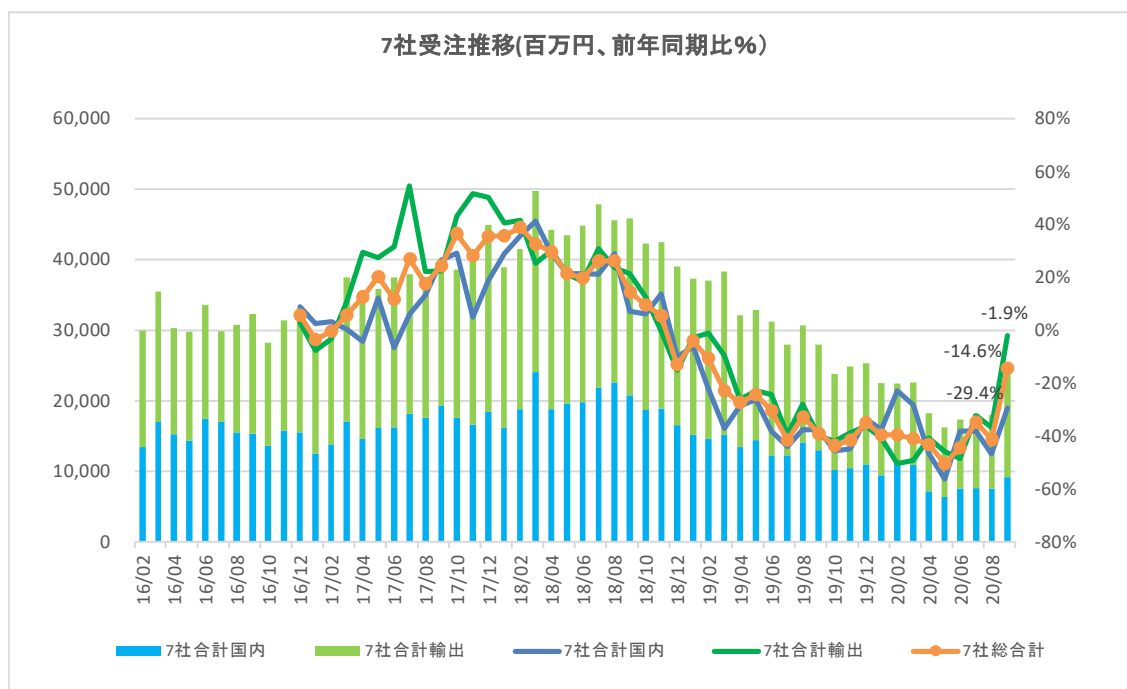


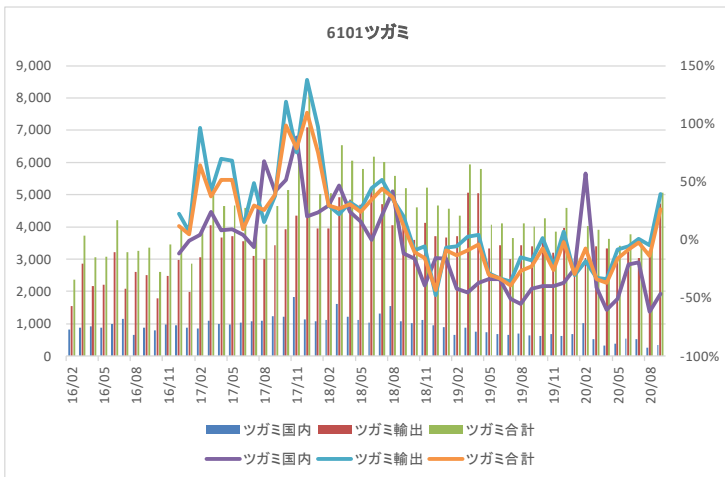
主要7社の9月受注は14.6%減の239億円

日刊工業新聞がまとめる主要工作機械7社の9月受注実績（10/13発表）は239億円となり、工業会とほぼ同様の動きとなっている。但し個別で見ると差が激しく、牧野フライス製作所は52.1%減の26.3億円、オークマ25.2%減の78.1億円、OKK16.7%減の8.6億円と業界平均を下回る受注に止まる一方、ツガミは26.1%増の50.7億円、三菱重工30.3%増の18.8億円など、7社中4社が前年同月比プラスになったが、いずれも輸出の増大が寄与している。特にツガミは中国中心に輸出が39.6%増と伸長、中国のウエイトが高いことが大きく寄与、国内外ともプラスとなったのは三菱重工のみ。

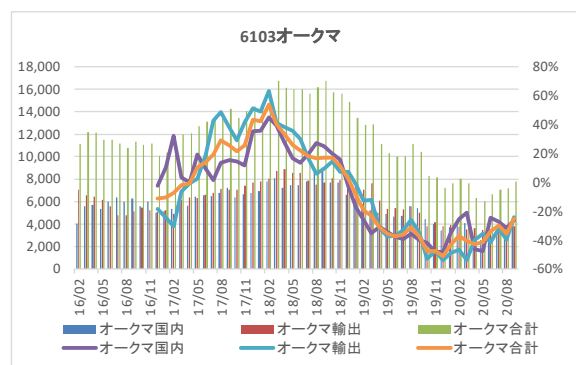
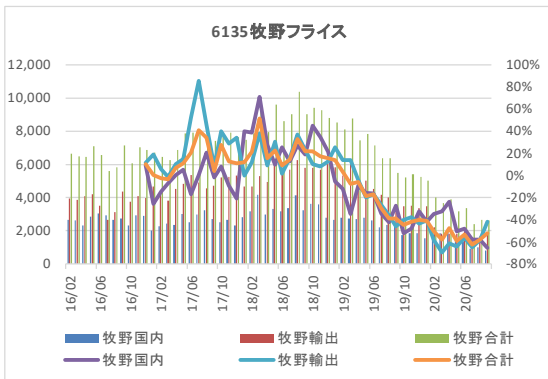
上期（4～9月）の受注では、全体で1119億円（38.8%減）、内国内は453億円（43.0%減）、輸出667億円（35.5%減）となっている。企業別では牧野フライスが55.5%減（国内49.9%減、輸出58.8%減）、芝浦機械52.2%減と半減以下、ジェイテクト47.1%減、OKK39.4%減が平均を下回り、オークマは34.9%減と平均並み。一方、ツガミは10.8%減の230億円、国内が44.0%減も輸出が4.5%減と中国が支えた結果がここにも出ている。

いずれにしても、日経や日刊工業など先行き楽観的なニュアンスを述べているものの、米中摩擦激化や自動車産業の再編の動き、航空機産業の中長期低迷で、專業大手のオークマや牧野フライスが依然として輸出で苦しんでいる。半導体産業向けを除き、7～9月対比で10～12月は中国以外でも横ばいから多少上向くとしているが受注回復のテンポは鈍いため、今後も地勢リスクやコロナなどで変化があれば、再度、下ブレする懸念もあり、予断を許さない環境が続こう。





社名	4-9月	国内	輸出
牧野フライス製作所	18,076 (¥55.5)	7,526 (¥49.9)	10,550 (¥58.8)
オークマ	40,999 (¥34.9)	19,995 (¥34.0)	21,004 (¥35.8)
OKK	4,447 (¥39.4)	3,442 (¥33.8)	1,005 (¥52.9)
芝浦機械	6,061 (¥52.2)	3,517 (¥53.9)	2,544 (¥49.7)
ジェイテクト	12,976 (¥47.1)	5,130 (¥54.0)	7,846 (¥41.3)
ツガミ	22,989 (¥10.8)	2,310 (¥44.0)	20,679 (¥4.5)
三菱重工工作機械	6,375 (¥27.6)	3,336 (¥43.9)	3,039 (6.4)
7社合計	111,923 (¥38.8)	45,256 (¥43.0)	66,667 (¥35.5)



工作機械工業会が9/30に2020年受注予測を1.2兆円から8500億円(30.9%減)に減額

工業会はコロナ、米中摩擦等で世界の設備投資減退が続く中で、9/30に年初公表した2020年受注予測1.2兆円(2.4%減)を8500億円(30.9%減)に引下げた。内訳は内需1900億円減額の3000億円(39.2%減)、外需1600億円減額の5500億円(25.3%減)予想。逆算して10~12月で月平均727億円の受注が必要。現状は中国の拡大継続で、コロナの急速な感染拡大がなければクリア出来ると判断され、8700億円(29.3%減)程度が見込まれる。

